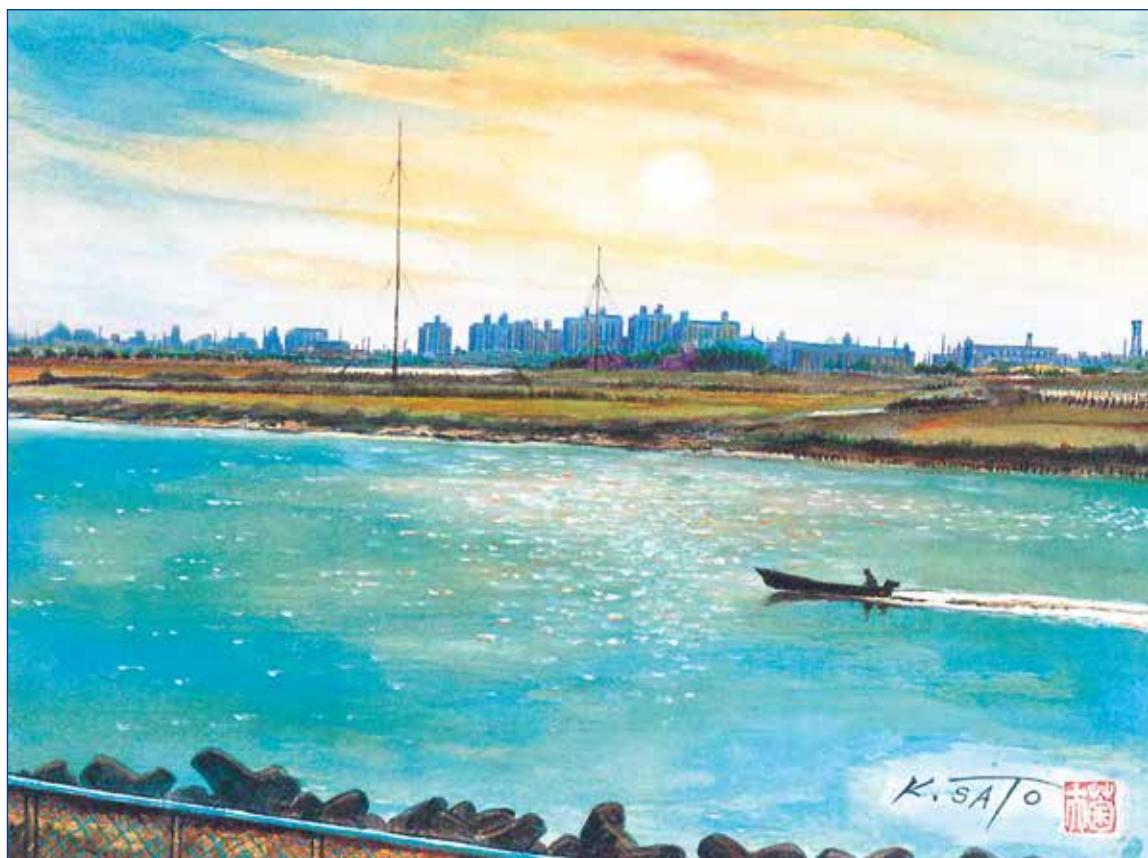


主な記事

ステージアップ

Stage Up

- ・色えんぴつで夢を描く
「絵夢の会」
- ・健康体操を30年継続
「パンジー元気会」
- ・特集 かわさき市民アカデミー



詳細・他記事等

- ◆施設めぐり
 - ・川崎市
大山街道ふるさと館
令和3年度
第2回企画展
「絵図・絵葉書・雑誌
に見る 高津」
 - ・夢見ヶ崎動物公園
豊かな緑の中、動物たちに
会いに行こう
- ◆財団からのお知らせ
 - ・スポーツ教室 講座紹介
『ボクサdeエクサ』
 - ・地名資料室
夏休み学習相談
 - ・お楽しみコーナー
クイズに答えよう!

◀1984年 アクリル

<川崎百景>さとう菊夫シリーズ⑯ 多摩川(幸区)

荒多摩川とも呼ばれてきた母なる多摩川は、古くから大規模な氾濫を起こし、下流の沿岸住民を苦しめ続けてきました。大正時代には連続して大洪水が発生。自らも命の危険に直面した御幸村の村会議員・秋元喜四郎は、小倉・鹿島田・北加瀬の住民代表と協議した結果、1914(大正3)年9月16日午後2時に出発し、羽織を用いず、わらじを履き、目印に編み笠を被り、警官の目を避けるように県庁に集合することにしました。500人以上の住民が参加した、歴史に残るアミガサ事件後、「多摩川築堤期成同盟」が結成され、大きな運動へと広がっていきました。翌秋、新任の有吉忠一知事が道路改修工事という名目で堤防作りを認め、1916(大正5)年に有吉堤が完成をみるのでした。夕映えの多摩川の美しい風景は、遠く、深く、アミガサ事件につながっています。

【20数年～40数年前の川崎の四季、田園風景、名所、茅葺の民家、寺社仏閣等を描いてこられた、さとう菊夫さんの作品をシリーズでお届けします。シリーズ①～⑯は209号～220号、⑰～㉗は233号～237号】



発行・(公財)川崎市生涯学習財団

〒211-0064 川崎市中原区今井南町28番41号

TEL 044-733-5560(代) FAX 044-739-0085

<http://www.kpal.or.jp/> E-mail:stage-up@kpal.or.jp

当財団は市民の主体的な学びと活動を支援するための諸事業を推進しています。

まち・ひと・多面体

地域における注目すべき取組

色えんぴつで夢を描く 「絵夢の会」

絵夢の会は、当財団主催の☆キラリ文化教室「色えんぴつ画入門」から生まれた同好会です。文化教室は春・秋・冬に個別に希望者を募集し、応募が多いと抽選になります。吉田真祈子先生の同講座は大変人気で回を追って応募者が増え、2倍近い競争率です。抽選漏れの希望者の強い要望で第2クラスに相当する「ステップアップ講座」もできましたが希望者は多く、続けて受講できない事態が続きました。



▲今日のモチーフは
スマホの中に…

お話し上手でお酒も好きな吉田先生と、2019年秋の講座終了時、武蔵小杉の洋風パブで懇親会を行いました。その場で同好会の話を持ち上がり、吉田先生にご快諾をいただいて同好会が誕生しました。発足時は先生を含め14人、現在は22人です。「後藤真祈子」というお名前で造形作家として活躍されている吉田先生のご指導の下、1回2時間半、月2～3回、生涯学習プラザで絵を描いています。先生のお名前のイニシャルがMであること、仕事ではスタジオエム、グループ絵夢で活動していることから「絵夢の会」となったそうです。

気軽に始めて、生きがいを見つけた

家族の世話が一段落したり、仕事の第一線から退いたりして自分の時間ができると、「何かを始めよう」という気持ちになるようです。そうした時に、「色えんぴつならできるかな」と、気軽に始めたメンバーが多いそうです。

初めは3原色でリンゴの絵を描くことから学び、水彩色鉛筆を知り、さらに透明水彩を試み、花や野菜、静物、風景、抽象画と題材はさまざまです。何をモチーフに、どんな画材で描こうかなど、創造の世界は無限に広がります。

離れて暮らす家族に絵手紙を送り続けている会員の方が、「母もとても楽しみにしていて、もう100通を超えた」と話してくれました。



▲はじめの一歩はリンゴの絵

「絵夢の会」初の作品展



▲力作が並んだ作品展会場



▲吉田先生参考出品
「椎茸」
色えんぴつ

今年、2月に中原市民館のギャラリーで初の作品展を開催しました。コロナ禍で迷いがあったのですが、市民館の感染予防対策を厳守して開くことができました。額装も初めての経験でしたが、展示作品 50 点、地域情報紙に予告記事が掲載されたこともあり、200名以上が来場して大盛況でした。コロナ禍で市民館の展示会も中止が相次ぎ、作品展のような催しを待ちかねたという来場者も多かったようです。

代表の村田廣志さんは、「作品展という目標があると一生懸命に描きますし、張り合いが出ます。思い切って開催して良かったです」と話します。「初めて描いたリンゴから、よくここまで上達されました。皆さんは私の誇りです」と、吉田先生も嬉しそうでした。

それぞれの味を楽しむ

会員の皆さんには日々に、「描くのが楽しい」「皆さんと会うのが楽しみ」と言います。楽しい空間はどのように作り出されるのでしょうか。

村田さんは「先生は本人が描いた絵を尊重し、けなさず、部分的に少しだけ手を加え、こうしたら良くなると教えてくれます。全く自由に絵が描けます」と、先生の指導方法を絶賛します。「描く人の気持ちが、性格が絵にそのまま出るわけです。それぞれの個性は絶対に消しません。ある程度ステップアップしなかったら楽しくないので指導しますが、技術的に教えて、私の門下生が皆同じ絵になってしまったら面白くないですよね。それぞれの味があっていいのです。本人が楽しんで描くことがいちばん!」と吉田先生。

活動を終えて帰路につく皆さんからは幸せオーラがあふれています。今から次回の作品展が楽しみです。



■ 問合せ
「絵夢の会」代表 村田 廣志
TEL 090-9961-3338

▲個性を尊重する
吉田先生(左)の指導

社会貢献・継続的な活動等

まち・ひと・多面体

健康体操を30年継続 「パンジー元気会」

パンジー元気会は、健康づくりを目的とした健康体操を楽しみ、会員相互の親睦を深めることを目標にしている自主グループです。1989(平成元)年に神奈川県体育協会の地域スポーツ振興事業「川崎市体操教室」終了時に同会の前身「中原体操教室」を立ち上げてから30年、2003(平成15)年に中原区の花にあやかって「パンジー元気会」と改称してからもうすぐ20年。一貫して米井智子先生が体操を指導しています。

週に1回土曜日に、生涯学習プラザ、中原市民館、とどろきアリーナなどで活動しています。現在の会員は40代から80代まで38人、川崎市体操教室時代からずっと続けている方もいます。



▲ 2020年11月28日 30年間の「感謝の会」

楽しく運動、知識欲も満たされる

取材した日、とどろきアリーナ2階体育室に集まった会員は16人。昨年から、コロナ禍の影響で2グループに分けて活動しています。会員の方が「寂しいけれど、月2回ずつで今は我慢」と話していました。高木和夫会長の挨拶に続いて、米井先生のお話そして、スポーツドクターの野田晴彦先生から新型コロナウイルス感染症に関するお話をありました。これまでの呼吸器感染症から現在の医療まで、テレビや新聞よりも分かりやすく解説。「風邪をひきたくないと考えて行動できる人はコロナにもかかりにくい」との言葉に、皆さん大きくうなづいていました。

スロージャズピアノをBGMに、体を十分にほぐすストレッチから始まり、曲のテンポが上がるにつれて体の動きも大きくなり、スクワットなどの筋肉トレーニングも行います。米井先生のお手本は、体のどの部分を動かしているか分かりやすく、美しい動きに見惚れてしまいました。



▲ 運動生理学・医学について
わかりやすく話す野田先生

次のプログラムに移る合間には、脈を測って平常時と比較し、自分の体の運動量を見ます。

次はダンスタイムです。3曲目の『Go West(ペット・ショップ・ボーカルズ)』では、かなり難しいステップも華麗にこなす皆さんに驚きました。



▲ ダイナミックにレッツダンス♪

二人の敬愛する指導者

30年にわたり体操指導を続けている米井先生は、(公財)日本スポーツ協会公認スポーツ指導員(体操マスター上級)として各地で体操指導を行い、栄養士もあります。健康づくりは生涯学習の場で進めていくのが効果的だと考え、無理なく、優しく、爽やかに会員を導きます。

月に1回、運動生理学・医学を分かりやすく話す野田先生は、健康教育で活躍されています。実は本誌ともつながりが深く、川崎区役所保健所健康課長時代にはロングインタビューを、2000(平成12)年からは連載コラム「ハート&ハーモニー」を4年にわたってご執筆いただきました。

理にかなった運動を継続し 心も体も健康であり続ける

10年以上会長を務め、穏やかな人柄で会員の信頼が厚い高木さんは、「体を動かすことはとても大事ですが、家でひとり、体を動かそうとしてもなかなかできません。やはり号令の下、指導者に理論的に指導してもらうとやりやすい。医学的見地からの話も聞き、理にかなった運動をしている満足感もあります。それと、土曜日に行くと仲間に会える。楽しくおしゃべりすることでも気持ちが晴れていきますし、体操が終わると体が軽くなったなあと感じます。自分の体ですから、できるだけ定期的に、持続的に体操を続けることを大切にしていたければなと思います」と話していました。

無理せず、楽しく、ちょうどよい運動量。そして気の置けない仲間たち。高木さんの肌はつやつやで、80代には見えません。続けるって本当に素晴らしい!!

左：高木和夫会長



中：米井智子先生



右：野田晴彦先生



■ 問合せ

「パンジー元気会」会長 高木 和夫

TEL&FAX 044-833-5929

メール takagi-2.16@s7.dion.ne.jp



かわさき
市民アカデミー学長
太田 猛彦

「学びの場」
「自分さがしの場」
「仲間作りの場」

それが

特集 かわさき市民アカデミー



認定NPO法人かわさき
市民アカデミー理事長
藤嶋 昭

「かわさき市民アカデミー」は1993年に開学し、川崎市民およびその周辺の皆さんに、学習を通じての生きがいと地域社会への積極的な参加を期待し、「生涯学習の場」を提供しています。ここ数年は、年間で延べ7,000名の受講生が学んでいます。

しかし、2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大の影響もあり、前期の講座は全て中止としました。後期は、会場や野外で新型コロナウイルス感染症対策を取るだけではなく、オンライン講座も導入することにより、多くの皆さんに受講していただくことができました。

2021年度前期も、引き続き感染症対策を実施しつつ、53の講座・ワークショップを開設しています。**そのうち半分以上は会場とオンラインを併用する講座となっています。**後期もまた、魅力あるカリキュラムを計画中です。

是非、かわさき市民アカデミーのホームページをご覧ください。

「生涯学ぶ」東京新聞川崎版からの抜粋

受講生Aさん：市民アカデミーは少人数のワークショップもあり、自主的な仲間との交流会や読書会などへの参加は、会話を通して自己の理解のレベルを知る良い機会にもなるし、異邦人に出会うこともできた。

受講生Bさん：最初は川崎をよく知りたいと、川崎学に入り、そして自分の興味のあるものを、おののが選んで受講した。新しい友人もできて、充実した日々を送った。これからも、市民アカデミーでの時間を過ごすことにした。亡き夫と共に。

受講生Cさん：いつの間にか市民アカデミーの世界にどっぷりつかっている私がいた。思い当たることはある。一つは一級の講師陣によるハイレベルで大学でも聴けない講義。市民アカデミーはボランティア運営であるが故の一体感などだ。



かわさき市民アカデミーは、1993年の創設以来、川崎市生涯学習財団が運営を行ってきました。
2007年NPO法人を設立。運営をNPO法人が担い、市民による自主運営を行っています。

認定NPO法人 かわさき市民アカデミー
〒211-0064 川崎市中原区今井南町28-41 川崎市生涯学習プラザ3F
TEL : 044-733-5590 FAX : 044-722-5761 HP : <http://npoacademy.jp/>

アカデミーは市民大学！
心新たに「入学式」

かわさき市民アカデミー
第30回 開講式



福田紀彦 川崎市長



藤嶋 昭 理事長

真剣に「学び」



地域の人たちとともに「学園祭」



さらに「学び」と「野外学習」



そして涙の(?)
「卒業式」

HPはこちら



施設めぐり

市内公的施設の紹介

高津区

川崎市大山街道ふるさと館

JR武蔵溝ノ口駅から徒歩7分
東急高津駅から徒歩5分

令和3年度 第2回企画展

「絵図・絵葉書・雑誌にみる 高津」

期間: 6月18日(金)~9月26日(日)

時間: 午前10時から午後5時

場所: 展示室

観覧料: 無料



▲写真絵葉書

左「七面山からの風景」 右「溝ノ口郵便局」
七面山(津田山):南武線津田山駅の東にある小高い丘

川崎市大山街道ふるさと館は、東京都の赤坂見附から神奈川県の伊勢原にある大山までを結ぶ大山街道(矢倉沢往還)と、ふるさと館のある高津との関わりをはじめとした、地域の歴史・民俗・文化を紹介しています。6月18日(金)から「令和3年度第2回企画展 絵図・絵葉書・雑誌にみる高津」を開催していますので、その概要をご紹介いたします。

江戸っ子の観光ブームの中での

稻毛・川崎地域

高津地域は多摩川をはさんで江戸・東京に隣接する立地であることから、大山街道などを通じて多くの観光客が訪れてきました。そのような歴史の中で、出版・発行された絵図・絵葉書・雑誌などの媒体は、高津地域各所の様子を外の地域の人々へ伝えてきたのです。

例えば、1791(寛政3)年に江戸馬喰町の森屋治兵衛が版元となり、溝口の丸屋が販売した「武陽玉川八景之図」は「綱下松」や「二子の渡し場」など、デフォルメされた溝口周辺のさまざまな名所が地図の中に描かれています。これは溝口周辺へ観光客を呼び込むために作られ、販売されていたもので、現在でいうところの観光パンフレットのような性質を持っていました。

二子橋が呼び込んだ旅行客

時代が下り、1923(大正12)年の関東大震災が起こると、復興物資の輸送などの問題から、多摩川をはさんだ東京・神奈川間の交通を改善するために二子橋の建設が決定します。実は江戸時代、幕府が江戸の防衛のために多摩川に橋を架けることを禁じてから、二子橋が完成する1925(大正14)年まで、二子では渡し船が用いられていました。二子橋の完成と、それに続いて1927(昭和2)年に実現した二子橋を通る玉川電気鉄道の開通は、二子・溝口へさらに多くの観光客を呼び込むことになりました。

二子橋や、それに続く高津各地の近代化にあたっては、それらを記念する写真絵葉書が複数発行され、当時の様子を現在に伝えています。また、1937(昭和12)年4月に発行された『アサヒグラフ』には、溝口で経営されていた「週末農園」を紹介する記事が掲載されています。これは畠を区画ごとに貸し出し、農作業の体験を提供するというので、主に東京の都市部に住むサラリーマン家庭などを対象としていました。

当時を伝える絵図・絵葉書・雑誌記事

今回の企画展では、これまで展示していない、写真絵葉書や雑誌の実物資料も交えながら紹介いたします。江戸時代から昭和初期にかけて、高津地域が江戸・東京をはじめとした近隣の地域からどのような眼差しが向けられ、高津を対象とする観光ブームが巻き起こってきたのか、ぜひ展示にてご覧ください。

第2回企画展は夏休み期間中にも開催しておりますので、自由研究などの宿題にもぜひ、ご活用ください。ご来館をお待ちしております。

アクセス



▲大山街道ふるさと館外観



※新型コロナウイルスの感染拡大防止等のために、日程等変更となる場合があります。ご来館いただく前に、ふるさと館のホームページでご確認ください

問合せ:

川崎市大山街道ふるさと館

〒213-0001

川崎市高津区溝口3-13-3

電話 044-813-4705

FAX 044-712-0034

展示室 午前10時から午後5時

ホームページ



幸
区

夢見ヶ崎動物公園

豊かな緑の中、動物たちに会いに行こう

夢見ヶ崎動物公園は、1972(昭和47)年に開園した「年中無休」「入園料無料」の動物公園です。加瀬山の丘の上、野鳥や渡り鳥、野生のタヌキも姿を見せる、自然がいっぱいの場所にあります。2021(令和3)年3月末現在の総展示数は59種類352点(哺乳類24種類163点・鳥類25種類87点・爬虫類10種類102点)で、園長はじめ6人の獣医師と10人の飼育員の皆さんが動物たちのお世話をしています。

取材した日は平日で、犬を連れた人やベビーカーを押した親子連れなどが、のんびり散歩しながら動物たちに話しかけていました。

シセンレッサーパンダ



竹を採食するアン(右:メス)
とファア(左:オス)

シセンレッサーパンダ



愛嬌たっぷりなケイコ
(ファアとアンの娘)

動物たちとの距離が近い!

同園は、動物の柵と人止め柵とが近くにあるので、見学者と動物との距離が近いことも特徴のひとつです。

ペンギン舎は水中のペンギンの姿が見られる展示になっています。水槽の前を走る小さなお子さんと並走するようにスープと泳ぐペンギン。ビデオに収めたくなるシーンです。

シマウマ舎では、美しいハートマンヤマシマウマがすぐ目の前を優雅に歩いていきます。つぶらな瞳が愛らしいラマの、笑っているような顔もじっくり楽しめます。ちなみに、ラマ舎のソメイヨシノがとても大きく見事で、花が散るとピンク色の花びらの絨毯がとてもきれいなのだそうです。

マーコール舎では毎年5月、赤ちゃん誕生の感動の瞬間に遭遇することも! タイミングが合えば、前足が出て、顔が出てきて、ポンと産まれ落ちる一部始終を目の当たりにすることがあるのだとか。

フンボルトペンギン



フリッパー(翼)
付け根のバンドで個体識別

マーコール



山の上からこちらを
見る、ボスのイワン

JR南武線「鹿島田駅」から徒歩約20分

JR横須賀線・湘南新宿ライン「新川崎駅」から徒歩約15分

バス利用時「夢見ヶ崎動物公園前」下車

小動物舎にはミーアキャットやプレーリードッグなどがあります。立ち上がったり、エサを手でつかんで食べたりする仕草は可愛らしく、いやされます。

リクガメ舎では、とても大きなアルダブラゾウガメや、甲羅の模様が美しいホウシャガメなどが展示され、エサのコマツナなどを食(は)む姿はいつまで見ていても飽きません。

手が届くほど近い距離に動物たちはいますが、触ろうとして手を出したり、物を差し出したりすることは、見学者と動物の両方にとって危険です。適度なディスタンスでの観察を心掛けましょう。

みんなでつくる動物公園

獣医師でもある職員の鈴木友さんは「野生動物はペットと違って、まだ分からないことがたくさんあり、皆で知恵を出し合いながら、手探りでやっているところがあります。難しいことが多いですが、子どもが産まれたとか、怪我が治ったとか、群れにうまく戻せたとか、そういうときは本当によかったです」と嬉しくなります」と話します。



▲ 動物に関する豆知識を
かわいいイラストで紹介
(ソポーターの手づくり)

ソポーターの存在も大きな力になっています。いろいろな獣舎にソポーター手づくりの掲示物があります。フンボルトペンギンの元気な兄弟の紹介や、人気者のレッサーパンダ親子の名前と顔の特徴など、動物たちに親しみを覚え、園内をより楽しく見て回ることができる情報が描かれています。

西側には富士見デッキがあり、高台からの眺めを楽しめます。お天気の良い日には富士山が見えますし、遊具があるのでお子さんにも喜ばれることでしょう。東側には、レジャーシートを敷くなどしてゆっくりできる広場もあります。外柵も門もなく、開放的な動物公園。あなたも夢見ヶ崎の動物たちに会いに行きませんか。

■問合せ :

川崎市建設緑政局緑政部夢見ヶ崎動物公園

〒212-0055

川崎市幸区南加瀬1-2-1

電話 044-588-4030

開園時間:午前9時~午後4時

年中無休・入園料無料

公式フェイスブックをチェックして ⇒
夢見ヶ崎動物公園をもっと知ろう!



南側斜面の遊歩道



「さいわい加瀬山の会」
がボランティアで管理

財団主催スポーツ教室 講座紹介

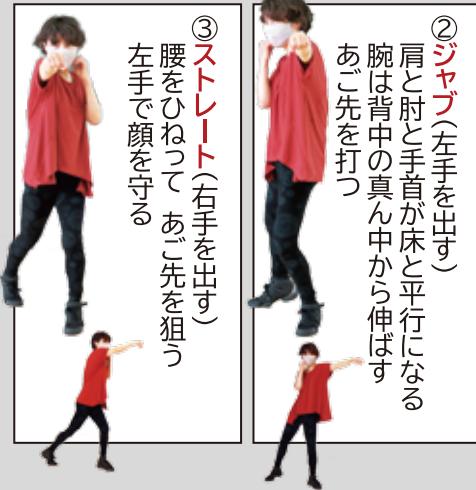
ボクサdeエクサ

体力増進、シェイプアップ、ストレス解消などの効果が期待できますので、女性だけでなく男性にもお勧めです。体力に自信のない方もご自分のペースで楽しんでいただけます。



尾藤 広造さん

スポーツ教室「ボクサ de エクサ」に勇気を出して申し込みました。ボクシングの動きを取り入れた有酸素運動だと聞いて、激しそう、きつそうと感じ、ためらっていました。体験講座に参加し、実際に、今井先生の歯切れの良い声かけて身体を動かしていると、あっという間に時間が過ぎ、汗びっしょりになっていました。間違いを恐れずに一生懸命やることで何か出来る気がして、楽しくレッスンに励んでいます。肩こりも少し楽になったみたいです。



今井篤子先生から
ワンポイントアドバイス
体幹を使いたいのでも
腕だけで動かないように。
腰を回すことをメインに考えて
動かすと、効果が出るよ！

受講生の声



山内 忠章さん

今までスポーツ教室を受講していて、運動習慣がついてきたので、何か続けたくて受講することにしました。まだ始まって2回目なので、動きに慣れず筋肉痛がありますが、毎回気持ちの良い汗をかくことができているので、満足しています。

高津区

地名資料室 JR 武蔵溝ノ口駅・東急溝の口駅 徒歩5分 生活文化会館(てくのかわさき)4階

地名資料室夏休み学習相談

地名に関する教材を使った学習や、夏休みの課題についての相談を行います。

期間 7月17日(土)~8月4日(水)午前・午後各1組
対象 小学生(3年生以上)・中学生・高校生
申込方法 希望の前々日までに申し込み

詳しくは下記まで(月曜・祝日休室)

■問合せ : 川崎市教育委員会事務局文化財課 地名資料室
高津区溝口1-6-10 てくのかわさき 4階 TEL 044-812-1102

◆お楽しみコーナー

Stage Up 238号 クイズに答えよう！



日本国内の〇〇〇〇パンダは、静岡市立日本平動物園が、全国の動物園などで飼育されている個体の血縁関係などを把握し、適切な繁殖計画を立てています。夢見ヶ崎動物公園にはオスのファファ、メスのアンとケイコが展示されています。

以下の〇にあてはまる言葉を入れてください。

『〇〇〇〇パンダ』 ※ヒント p.7

【応募方法】

①答え ②〒・住所 ③氏名 ④Stage Upの入手場所
⑤今号の誌面でよかった記事(理由)を書いて、はがき、FAX、Eメールで担当宛、応募してください。

*締切 2021年8月16日(月)必着

*正解 ホームページ及び次号に掲載

*正解者3名に500円の図書カードを贈呈
(発表は発送に代えさせていただきます)



〒211-0064 中原区今井南町28-41

川崎市生涯学習財團 Stage Up(ステージアップ)担当
Eメール:stage-up@kpal.or.jp

TEL 044-733-5811 FAX 044-739-0085

*個人情報は、発送業務以外の目的では使用しません。

☆237号のクイズの答え・・・マリエン